

苗木城跡の見どころ

苗木城は、巨大な岩石が積み重なった自然の露頭の上にあり、周囲 360 度を見渡すことができる。山上に見られる様々な様式の石積みの擁壁は、現存する岩や巨石の間に巧みに築かれ、参道や城郭の構造を支えている。

山麓の木曾川北岸に城の正門がある。山門から山頂までは、48 のつづら折りの急な坂道が続く。山頂には天守閣があり、そのほかの門や建物も、もともとは参道沿いに建っていた。

1. 足輕長屋

山麓には、城に入る前に足輕が出頭するための建物がいくつかあった。足輕は最下級の武士で、戦いの最前線で戦うのが一般的だった。当初の建物には、大將の部屋や稽古場が含まれていた。

2. 大矢倉跡

17 世紀半ばに建てられた 3 階建ての望楼。城内最大の望楼であった。主に倉庫として使われた 1 階を囲む石垣が残っている。城壁の小穴は、城の北側の防御に使われた。

3. 二の丸跡

二の丸は遠山氏の居所であり、家臣が集まる部屋もあった。

4. 千石井戸跡

山の上の天守閣近くに位置し、標高が高いにもかかわらず、大干ばつでも涸れなかったことで知られる井戸。「千石」の名は、「千人」（つまり多人数）の水が汲める井戸として評判になったことに由来する。現在でも、この井戸からきれいな水を汲むことができる。

5. 武器蔵跡

この蔵は主に銃や弓を保管するために使われた。軒下の土台と縁石のほとんどは、かつてのまま残っている。

6. 笠置矢倉跡

本丸西側のこの場所には、3階建ての物見櫓が建っていた。巨石群の上に建てられていた。西に笠置山を望むことができる。

7. 天守閣

天守閣は、山頂にある2つの巨石の上に、支柱を立てて建てられていた。当時の大きさは幅9メートル、長さ11メートル。天守閣は敵を欺くため、外見は3階建てに見えるように設計されていた。しかし実際は内部の下の2階は使用することができないほどの狭さだった。

8. 馬洗岩

城の伝説によると、籠城の際、この岩（周囲約45メートル）の上に馬を乗せて米で洗うことで、城の住人に豊富な水があるように見せかけて敵の目を欺いたという。